



愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

2021年7月15日(木)
愛知県陶磁美術館学芸課
担当 田畑、大西
電話 0561-84-7474
愛知県民文化局文化部文化芸術課
振興第一グループ
担当 小林、田渡
内線 2459・2462
ダイヤルイン 052-954-6183



愛知県陶磁美術館特別展

はな はな

華 * 花



— 四季の花と中国陶磁史 —

Hana * Hana

Magnificent Flowers : Four-Seasonal Flowers and Chinese Ceramic History

はなもんよう
花文様の本当の美しさを知っていますか？

悠久の歴史を有する中国の陶磁器には、花の美しさを多彩に表現した作品があります。

「中華の美しい花」という意味を込めた本展では、四季を彩る「牡丹」「蓮」「菊」「梅」に焦点を当てます。南北朝時代（5世紀）から清時代（18世紀）にみられる「三彩」「青磁」「青花」「五彩」など多種多様な作品から、花の色彩と技法についての陶磁史を概観します。

また、「百花王（牡丹）」「花中君子（蓮）」「隱逸花（菊）」「一枝春（梅）」など、花にはそれぞれに込められた意味があります。陶磁器に施された様々な表情の四季の花について、中国の古典や漢詩・花の鑑賞史を通して紹介します。

みどころ

- ◆重要文化財・重要美術品をはじめ、名品でたどる四季の花。多彩な色彩と技法を紹介します。
- ◆陶磁史・文様史・花の鑑賞史・文学史など、様々な角度から花の美しさを読み解きます。
- ◆展覧会をさらに楽しむ連続講座&中国茶会。当館ならではの「搔き*花器」ワークショップ（搔落し技法※の花器作りといけばな体験）を開催！

※化粧土を掛けた陶磁器の表面を、文様部分を残して削ることで、地の土色とのコントラストを表す技法です。

- 1 会 期** 2021年10月9日(土)から12月12日(日)まで
休館日：毎週月曜日
- 2 開館時間** 午前9時30分から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
※ただし、10月9日(土)は開会式のため観覧は午前11時から
- 3 会 場** 愛知県陶磁美術館 本館1階 第1展示室・第2展示室
(瀬戸市南山口町234番地 電話：0561-84-7474(代表))
- 4 主な展示作品** 別紙のとおり

5 観覧料

一般 900円(団体720円)、高大生 700円(団体560円) 中学生以下無料

* () 内は20名以上の団体料金

6 割引制度

身体等に障がいのある方及び付添者(手帳等提示)/リニモ「陶磁資料館南」駅等に設置の割引ちらし、リニモ又は名古屋市交通局の「一日乗車券」、ちらし等の割引引換券、JAF会員証等を持参された方/同一展リピート割など、各種割引制度があります。

詳細は県陶磁美術館の公式Webページで御確認いただくか、当館までお問合せください。

(https://www.pref.aichi.jp/touji/use_guidance/)

※各割引制度の併用はできません。

- 7 主 催** 愛知県陶磁美術館、朝日新聞社
- 8 後 援** 愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)

9 関連事業(各事業の詳細は公式Webページで御案内します。)

(1) 担当学芸員による連続講座

- ① 10月24日(日) 「華*花 牡丹」
- ② 11月14日(日) 「華*花 蓮」
- ③ 11月28日(日) 「華*花 菊」
- ④ 12月12日(日) 「華*花 梅」

いずれも午後1時30分から1時間程度

会場：本館地下1階講堂

定員：100名(事前申込不要、先着順、聴講無料)

(2) 担当学芸員による中国茶会と講座（各回 1 時間程度）

茶室「陶翠庵」にて毎回異なるテーマで中国茶会と講座を行い、展覧会を鑑賞します。

10月22日（金）①午前10時30分～/②午後1時30分～ 「華＊花茶会 牡丹」

11月12日（金）③午前10時30分～/④午後1時30分～ 「華＊花茶会 蓮」

11月26日（金）⑤午前10時30分～/⑥午後1時30分～ 「華＊花茶会 菊」

12月10日（金）⑦午前10時30分～/⑧午後1時30分～ 「華＊花茶会 梅」

会場：茶室「陶翠庵」及び本館 第1展示室

料金：600円（お茶・お菓子）※別途本展観覧券が必要です。

定員：各回10名（事前申込制）

(3) 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：10月16日（土）、10月30日（土）、11月6日（土）、11月20日（土）、
12月4日（土）、12月11日（土）いずれも午後1時30分から1時間程度

場所：本館 第1展示室・第2展示室 ※集合場所は、第2展示室入口前です。

聴講無料（ただし本展観覧券が必要です）、事前申込不要、先着15名。

※(1)～(3)の講師は、田畑潤（愛知県陶磁美術館 学芸員）

(4) ワークショップ「搔き＊花器」全3回

搔落し技法による花器作りといけばなを体験する全3回のワークショップです。

①10月10日（日） 「花器作り」

②10月17日（日） 「特別鑑賞・搔落し」

③12月5日（日） 「いけばな」

①②は午前10時30分から午後3時30分まで（昼食休憩あり）、③は午後1時30分から3時30分まで

会場：愛知県陶磁美術館 本館・陶芸館

講師：加藤清之氏（陶芸家）

定員：15名（応募多数の場合は抽選）

※お申込みは、全ての回に参加できる方に限ります。要参加料。

※(2)の申込方法の詳細及び(4)の参加料や申込方法の詳細は、8月上旬頃に県陶磁美術館の公式Webページで発表する予定です。

(https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2021/t_hanahana/index.html)

10 問合せ先

愛知県陶磁美術館

〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

電 話：0561-84-7474（代表）

ファクシミリ：0561-84-4932

メー ル：touji@pref.aichi.lg.jp

中国陶磁の名品から
色彩豊かな花の物語を紹介するよ！



当館マスコットキャラクター
とうじっち

〈参考〉

【同時開催】

特集展示「喫茶の碗の物語 —中国陶磁への憧れ、そして…」

10月9日（土）～12月12日（日） 本館2階 第3展示室

鎌倉時代から室町、桃山、江戸という時代の中で、喫茶の碗に訪れた大きな展開を、天目と茶碗というそれぞれの動きから御覧頂きます。

体験▶ 8Kで文化財「ふれる・まわせる 名茶碗」を併設



大井戸茶碗 有楽井戸【重要美術品】 朝鮮時代 東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
※本作品は10月19日（火）より展示します。

序章：はじまりの花 - 「華」から「花」へ -
何が見られる？⇒意外に新しい？花文様の出現。



【画像 NO. 1】

せいじこくかれんかもんぼん

青磁刻花蓮花文盤

中国 華南

南朝時代 5-6 世紀

口径 25.0cm

東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

仏教美術「蓮」文様の出現！

- ・中国の陶磁史において、花文様の出現と流行は意外に新しく、5 世紀の南北朝時代と考えられます。その背景の一つが、中国古代の伝統的な文様には存在しない、仏教文様としての蓮華文様の流入と考えられます。



【画像 NO. 2】

さんさいばいかもんこ

三彩梅花文壺

中国 華北

唐時代 8 世紀

総高 24.2cm

東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

古代の流行メイクから美しい文様へ

- ・中国南北朝の宋の武帝の娘、寿陽公主の額の上に落ちた梅の花は、以降「梅花粧」と呼ばれ、流行のメイクとなりました。これまで注目されていなかった梅の花の美しさは、後の時代の美しい文様として花開きました。

第一章：色彩と技法

何が見られる？⇒色鮮やかな中国陶磁。名窯と技法でたどる花文様の歴史。



【画像 NO. 3】

りよくゆうかつかぼたんもんほうしゅへい

緑釉劃花牡丹文鳳首瓶

中国 東北 缸瓦窯

遼時代 11 世紀

高 37.7cm

五島美術館蔵

青緑之花：「鳳凰」と「牡丹」は皇女の証

- ・秦漢時代以降、「龍」は皇帝を「鳳凰」は后妃・皇女の象徴となり、世界三大美人の一人「楊貴妃」は牡丹に例えられました。
- ・輪花の杯を頭に乘せたかのような鳳凰が特徴的ですが、胴部に繊細な線彫り「劃花」で表現された牡丹文にも注目してください。



【画像 NO. 4】

しろじてきかてんし ぼたんもんめいびん

白地剔花纏枝牡丹文梅瓶 【重要美術品】

中国 磁州窯

北宋時代 10-12 世紀

高さ 36.6cm

MOA 美術館蔵

しろのはな

白之花：大胆な搔落し技法による文様表現！

- ・白土で化粧掛けした表面を搔落す「剔花」の技法で灰色の素地を露出させ、色彩のコントラストで牡丹を表現しています。
- ・線彫りの牡丹と空間の搔落しの痕跡から大胆かつ素早い作業によるものと考えられます。



【画像 NO. 5】

しろじくろてきか ぼたんもんめいびん

白地黒剔花牡丹文梅瓶 【重要美術品】

中国 磁州窯

宋時代 12 世紀

高さ 33.3cm

五島美術館蔵

くろのはな

黒之花：「百花王」、天地をつなぐもの

- ・白化粧の上に黒釉を掛け、線刻と搔落しにより大輪の牡丹が表現されています。
- ・天に向かって咲き誇る牡丹の裏面は、地を見下ろす牡丹が表現され、天地をつなぐ「王」の風格を備えています。



【画像 NO. 6】

せい か ぼたんもんこ

青花牡丹文壺

中国 景德鎮窯

明時代初期 15 世紀中葉

高さ 34.3cm

たましん美術館・多摩信用金庫蔵

せいらいんのはな

青藍之花：絵付の革命、世界へ拡がる

- ・白地に呉須で染め付ける「青花」は、中国国内のみならず、海外でも大流行した技法で、その出現を契機に陶磁器における絵画表現が発展していきます。
- ・青一色でありながら、巧みな筆使いや濃淡で牡丹の花はもちろん、枝や葉も写實的に表現しています。



【画像 NO. 7】

しろじこうりよくさいぼたんもんわん

白地紅緑彩牡丹文碗

中国 磁州窯系

金時代 13世紀

口径 12.5cm

東京富士美術館蔵 ©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

さいのはな 彩之花：カラフルに表現された花文様

- ・白化粧の上に透明釉を掛け、高温で焼成した後、赤や緑で文様を描き、低火度で焼き上げる上絵付の技法が用いられています。
- ・小さな碗ですが、鮮やかな赤の発色とかすれて銀化した緑彩が格調高く、ふくよかで堂々とした富貴の花が素早い筆致で描かれています。

第二章：四季の花—牡丹・蓮・菊・梅

何が見られる？ ⇒花の鑑賞史(漢詩・古典・花譜など)の観点から、花文様を読み解きます。



【画像 NO. 8】

せいかゆうりこうてんしぼたんもんそうじこ

青花釉裏紅纏枝牡丹文双耳壺【重要美術品】

中国 景德鎮窯

清時代 (雍正年間・1723-1735)

高さ 43.5cm

出光美術館蔵

てんこうこくしょく 牡丹：「天香国色」この花に勝るものなし

- ・青花磁器に、同じく下絵付で銅を発色させる「釉裏紅」で妖艶な赤紫色の牡丹を描いた本作は、その色調から高度な技術が認められます。
- ・牡丹の中でも特に愛でられた赤紫色の花が咲き乱れる様は、花王の美しさを褒め称える言葉「天香国色」に通じ、その香りも感じられるような雰囲気醸し出しています。



【画像 NO. 9】

せいはいくじれんじつけいはいたく

青白磁蓮実形杯・托

中国 景德鎮窯

北宋時代 11-12世紀

托：口径 18.0cm

静嘉堂文庫美術館蔵 / DNPartcom

せいれんけつぱく 蓮：清廉潔白の象徴

- ・蓋付きの杯は花托を、受け皿の托は蓮の花弁を表現しています。花托上に突き出た蓮の実も忠実に表現しています。
- ・器全体に施された青白磁の釉調は、清廉潔白のイメージと結びつくとともに、満開から実をつけ枯れゆく美しさと儚さをも想像させます。



【画像 NO. 10】

ごさいきく かもんふかばち

五彩菊花文深鉢

中国 景德鎮窯

清時代 18 世紀

総高 29.4cm

東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

ヨーロッパに愛された東洋の菊

- ・中国の菊は古来、野菊を指しましたが、宋代以降、今日の菊を含む多くの品種が作られました。ヨーロッパには18世紀以降、東洋の花「菊」のブームが到来しました。
- ・日本の古伊万里金襴手きんらんてを模倣したヨーロッパ輸出品「チャイニーズ・イマリ」としての本作には、大輪の菊とともに桜が描かれています。



【画像 NO. 11】

ほうろうさいまいじゅもんぼん

琺瑯彩梅樹文盤 **【重要文化財】**

中国 景德鎮窯

清時代 (雍正年間・1723-1735)

口径 17.3cm

東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

精美なる梅の花 清朝の秘宝!

- ・題句「芳蕊経時雪裏開」は中国最古の辞典『爾雅』からの引用で、冬の雪景色の中に美しく咲き春を告げる意味を示します。
- ・琺瑯彩とは、清朝宮廷の専属工房で絵付けされた最高級品で、清朝動乱以後に流出した経歴を持つ故宮の秘宝です。

終章：四季花共演

何が見られる? ⇒異なる季節に咲く花が一つの作品に描かれているものを取り上げ、その組み合わせや意味にせまります。



【画像 NO. 12】

ごさいてんし かもんぼん

五彩纏枝花文盤 **【重要美術品】**

中国 景德鎮窯

明時代 16 世紀

口径 32.0cm

MOA 美術館蔵

四季花共演！咲き誇る花の世界

- ・日本で「古赤絵」と呼ばれる五彩磁器。濃厚強烈な色彩と自由な筆使いは民窯ならではの。
- ・見込み中央に蓮の花、その周囲と側面に牡丹の花、外周には菊の花が描かれています。異なる季節の花が一つの器に展開する「一年景」あるいは花のように美しい時期「花様年華」を示すような名品です。